

備薬チェック時間短縮への試み

宇野 真理子 今井 潤子

【はじめに】

常備薬は患者の緊急の症状に対して処置が施されるために必要な薬品で決められた数が決められた場所に保管されている。当病棟では常備薬チェックを夜勤業務の一番初めに行っている。長時間の夜勤が始まる最初の業務であり、チェックの仕方や保管場所などシンプルかつスムーズに行いたいと考え取り組んだ。3M（ムリ・ムダ・ムラ）をなくすために改善活動を行い時間短縮に繋がったので報告する。（図1）

【方 法】

問題解決型QCストーリーに沿って活動を展開した。

【期 間】

平成26年9月～平成27年12月

【結 果】

常備薬チェックに要する時間を現状把握するため1カ月間調査を行った。その結果平均15分かかる事が分かった。（図2、3）

常備薬チェックに3M（ムリ・ムダ・ムラ）が隠れていないか調査したところ、①常備薬が多い②チェック表が多い③常備薬の保管場所が多数ある事がわかった。（図4～11）

この3点に焦点を当て以下の対策を実施した。（図12）

①に対し、病棟担当薬剤師と使用頻度の少ない薬品について検討し内容を改めた。（図13～17）

②に対し、他の病棟を参考にチェック表を作成し直した。（図18, 19）

③に対し、点滴・内服を整理し、レイアウトの変更をする事で可能な限り1か所に集中するよう試みた。（図20, 21）

再度常備薬チェックに要する時間を1カ月調

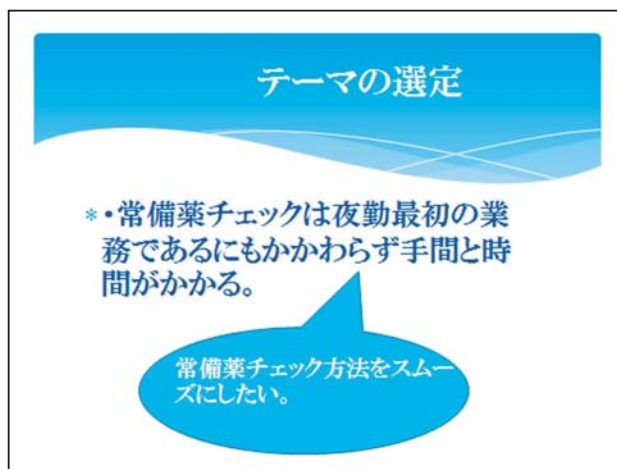


図 1



図 2

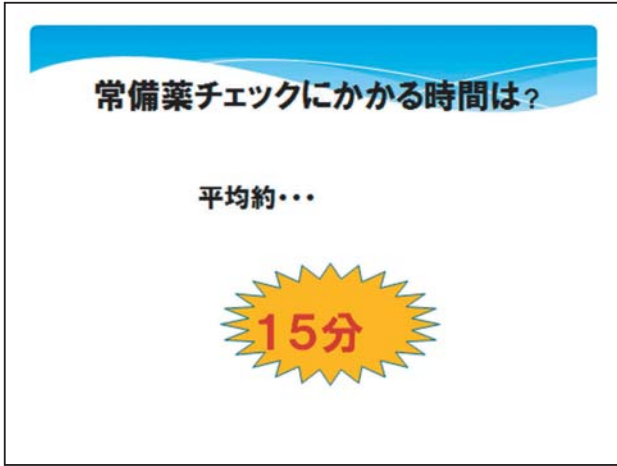


図 3



図 4



図 5



図 6



図 7

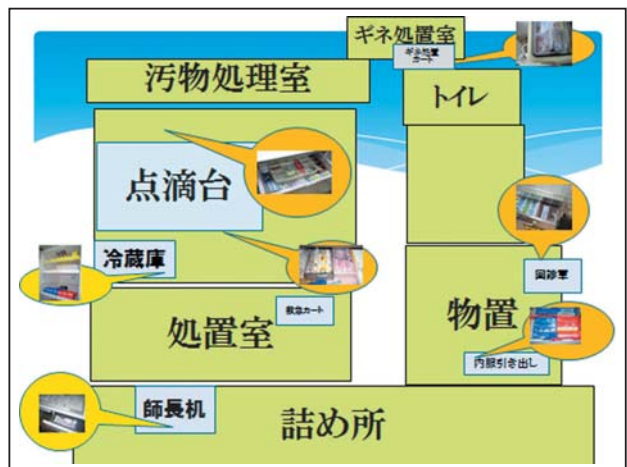


図 8



図9

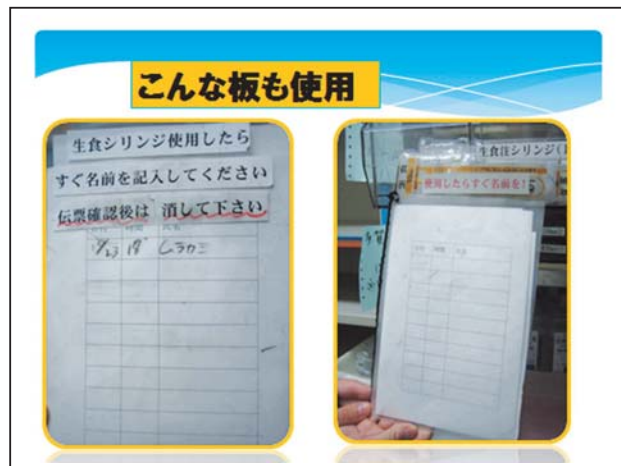


図10

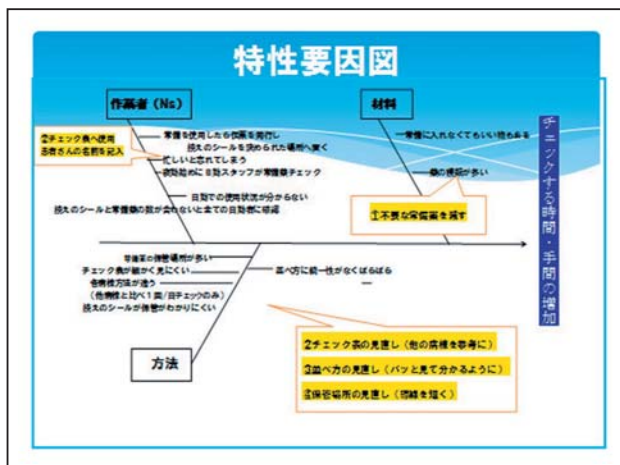


図11

なぜこんなにチェックに時間がかかるか考えてみると

- ①常備薬自体が多い
- ②チェック表が多い
- ③常備薬の保管場所が多数ある (点滴台・内診台・物置の内服・回診車 冷蔵庫・師長机)

図12

対策の検討と実施

①常備薬自体が多い

- ・病棟担当薬剤師と使用頻度の少ない薬剤について話し合い常備薬から減らすことができるか検討
- ・病棟伝達会でスタッフにも減らしてよい薬剤について検討

図13

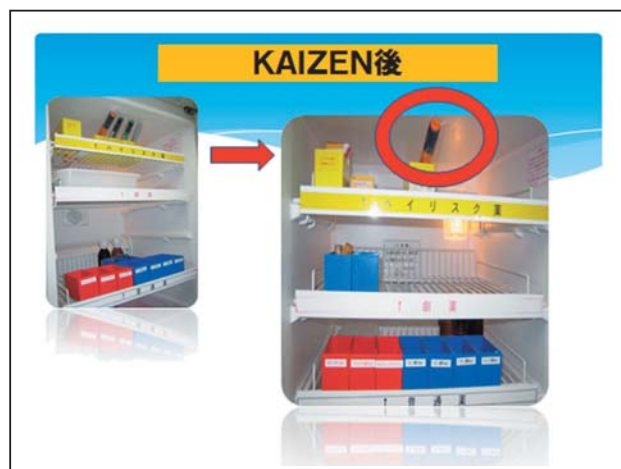


図14



図15



図16

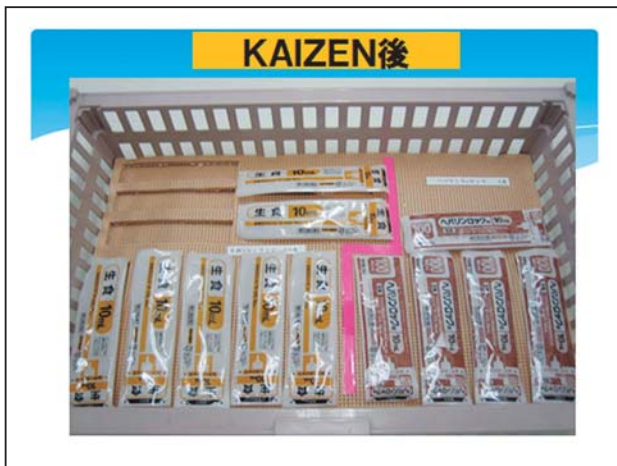


図17

対策の検討と実施

②チェック表が多い

・3種類あったチェック表を廃止し、他病棟を参考にラミネート化した物を作成。

図18



図19

対策の検討と実施

③保管場所が多数ある

・冷蔵庫は坐薬、師長机は向精神薬の保管場所のため現状維持とした。

・内服や点滴を整理し、レイアウトを変更。
→点滴台の周辺に集中させた。

・婦人科内診室の薬剤はほとんど使用しないため
→設置を取りやめた

図20



図21

スタッフからの声

- 👍 チェックがスムーズになった
- 👍 一か所にかたまっているため導線が短くなった
- 👍 楽になった
- 👍 使用した患者さんの名前を書き忘れる

図22

効果の確認

KAIZEN後の常備薬チェック時間を再調査

平均約・・・9分50秒

5分10秒短縮!!!

図23

標準化と定着化

- ★常備薬定数を必要最低限にする
- ★チェック表の簡易化(ラミネートしたもののみにする)
- ★保管場所を1か所に集中させる

図24

査したところ、15分から9分50秒へと短縮した。(図22) 又スタッフから「チェックがスムーズになった」「楽になった」「注射薬が整頓されており確認しやすくなった」「一か所にかたまっているため導線が短くなった」といった声も聞かれた。(図23)

【考 察】

長時間かつ多忙な夜勤の中で行う業務負担の軽減を図るため、改善活動に取り組んだ。要因分析の結果に働きかける事で、常備薬チェック時間の短縮に繋がった。また、アンケートによるスタッフの良好な意見からも業務の簡易化に繋がったと言える。(図24)

【ま と め】

たった一つの業務であっても「ムリ・ムダ・ムラ」が重なる事は業務全体に影響するものであり、どんな小さな事であっても「ムリ・ムダ・ムラ」を無くす事は重要である。今後、定着化を図ると同時に内容の見直しを継続する事で、最善の方法を追求するよう努めたい。

